

# 小学校における教科担任制の取組

小樽市立手宮中央小学校 学級数9 (校長 谷本 慎司)

## I 実践の趣旨

本校では、令和2年度から3年間、文部科学省による学園制加配活用事業の指定を受け、学力向上や中1ギャップの解消を図ることを目的に、小学校第5・6学年における一部教科担任制を導入した。国語科、算数科、社会科は、本校の教員が、理科、外国語科は、北陵中学校の教員が、小学校で指導している。小学校の授業に中学校の教員が加わり、小・中学校9年間を見通した教育の充実や教員の専門性を生かした質の高い授業の提供を目指して取り組んだ。

## II 実践の概要

### 1 教科担任制を効果的に活用する取組の成果

全国学力・学習状況調査の結果を分析した結果、本校の児童に次のような力の育成が必要であることが分かった。

- ① 大まかな内容を把握する読解力
- ② 必要な条件を的確に把握する力
- ③ 自分の考えを文章にあらわす力
- ④ 複数のデータを比較、組み合わせ考える力

こうした力を育成するために、「活用力を高める授業改善」として「問いを生むための問題提示」「思考の共有のための交流場面」「学びを実感・活用するための振り返り」の工夫を行い、授業の質の向上を図った。

また、一部教科担任制の導入に伴い、高学年の教員が低学年の図工や音楽の専科に入り、空き時間を確保した。

加えて、学級担任が行うテストの採点や宿題の点検など手の空いた教員が取り組めるようなサポート体制を確立することで、教材研究の時間を生み出した。

こうした取組により授業改善を推進した結果、児童に必要な力が身に付いたか検証するため、知識を活用する問題を作成したりチャレンジテストの結果を分析したりした。

### 2 授業と家庭学習をつなげるノート指導の取組

上記の取組をより強固にするため、日々の授業と家庭学習をつなげるミニ研修を通して、「ていねい・みやすい・やくにたつ(てみや)」を合言葉に、課題解決型の授業に合わせたノートの取り方を、教科・学年で系統立てて指導をしている。

また、教科担任が単元の終わりごとに、単元を見開き2ページでまとめる課題を児童に出し、授業と家庭学習の両輪で、ノートを活用して学ぶ力を育成する取組を実施した。

授業展開が統一され、主体的に学ぶ授業を展開することで、児童同士がつながり合おうとする意識が醸成された。また、「ノートコンテスト」を児童会が主体となって開催するなど、意欲的に行動をする姿がみられた。

| 学園制（小学校教科担任制等）について |     |                                  |             |
|--------------------|-----|----------------------------------|-------------|
| 6年1組の1日の時間割のイメージ   |     |                                  |             |
| 校時                 | 教科  | 担当                               |             |
| 1                  | 算数  | 6年1組の学級担任                        | 6・7年次の算数を教員 |
| 2                  | 理科  | 本校中学校から理科担当教員が派遣（5・6年生）          |             |
| 3                  | 外国語 | 本校中学校から外国語担当教員が派遣（5・6年生）         |             |
| 4                  | 国語  | 6年1組の学級担任                        | 6・7年次の国語を教員 |
| 5                  | 社会  | 社会科専科教員（派遣）が指導（5・6年生）            |             |
| 6                  | 体育  | 6年1組の学級担任、専・理・国・英・道・技・体・音楽・図工・美術 |             |

【教科担任制のイメージ】



【中学校教員による指導】



【採点や点検などのサポート体制】



【ノートコンテスト】

## III 実践の成果（○）と課題（●）

- 教科担任制を進めていくことにより、教員はより深く教材を研究し、指導の系統性を意識した授業改善を行うことができた。
- 空き時間を、教材研究、授業準備、学級業務、授業参観等に有効活用できるようになった。
- 児童のよさを様々な視点で見ることができるとともに、児童にとって学習や学校生活などについて相談できる教員が増えた。
- 時間割を組み立てや調整を工夫するとともに、指導の一貫性が保つために、教員同士の連絡を密にする必要がある。